

自己評価報告書

平成 23 年 4 月 1 日現在

機関番号：3 2 6 4 1

研究種目：基盤研究 (C)

研究期間：2008 ～ 2011

課題番号：20530607

研究課題名 (和文) 高校生における進路選択に伴う時間的展望の変化プロセスの研究

研究課題名 (英文) Study on developmental processes of time perspective during career choice in high school students.

研究代表者

都筑 学 (Tsuzuki Manabu)

中央大学・文学部・教授

研究者番号：90149477

研究分野：社会科学

科研費の分科・細目：心理学・教育心理学

キーワード：時間的展望、進路選択、環境移行、高校生、縦断調査、学校適応

1. 研究計画の概要

本研究は、高校生が進学・就職する期間に焦点を当て、4 年間にわたる縦断的調査を実施し、(1)進路選択に伴う環境移行が時間的展望に与える影響、(2)高校在学中から卒業後における時間的展望の縦断的变化、(3)時間的展望の発達過程の因果的モデル、を検討することを目的とする。

2. 研究の進捗状況

本年度までに、4 年間にわたる縦断調査研究のうちの 3 年間分の調査を実施し、調査データを収集してきた。

調査は、高校生調査と卒業生調査の 2 つの部分から構成されている。2008～2010 年度においては、東京都立高校 9 校の生徒・卒業生を対象に、以下のような調査を実施した。

2008 年度：高校 3 年生を対象とした第 1 回目の高校生調査を実施した。1,715 人 (男子 805 人、女子 910 人) の調査データを回収し、820 人 (男子 366 人、女子 454 人) から卒業後の調査への協力承諾を得た。

2009 年度：高校 3 年生を対象とした第 2 回目の高校生調査を実施した。1,621 人 (男子 746 人、女子 875 人) の調査データを回収し、698 人 (男子 283 人、女子 415 人) から卒業後の調査への協力承諾を得た。卒業後の第 1 回目の卒業生調査も実施し、第 1 コホート (2008 年度卒業) 395 人 (男子 154 人、女子 241 人) の調査データを回収することができた。

2010 年度：高校 3 年生を対象とした第 3 回目の高校生調査を実施した。1,415 人 (男子 653 人、女子 762 人) の調査データを回収し、690 人 (男子 296 人、女子 394 人) から卒業後の調査への協力承諾を得た。第 2 回

目の卒業生調査も実施し、第 1 コホート (2008 年度卒業) の卒業 2 年目調査では 266 人、第 2 コホート (2009 年度卒業) の卒業 1 年目の調査では 301 人の調査データを収集した。

以上のようなことから明らかなように、本年度までに、当初の研究計画通りに 3 回の高校生調査と 2 回の卒業生調査を順調に実施し、第 1 コホートでは 3 年間分、第 2 コホートでは 2 年間分、第 3 コホートでは 1 年間分の縦断的調査データを収集することができた。

また、研究成果の一部を日本心理学会第 73 回大会 (2009)、日本教育心理学会第 51 回総会 (2009)、日本青年心理学会第 18 回大会 (2010) において発表した。

3. 現在までの達成度

②おおむね順調に進展している。

(理由)

2010 年度の高校生調査において 1 校が先方の都合により調査未実施と終わったが、それ以外では順調に進んでおり、貴重な縦断調査データが収集できたといえる。

4. 今後の研究の推進方策

来年度 (2011 年度) が最終年度であり、研究計画通りに、第 3 回目の卒業生調査を郵送で実施し、第 1～3 コホートを対象にして、引き続き縦断調査データを収集することになる。

5. 代表的な研究成果

(研究代表者、研究分担者及び連携研究者には下線)

〔学会発表〕(計3件)

①都筑学 高校生の進路希望が時間的展望に与える影響 日本青年心理学会第18回大会 2010年11月27日 至学館大学

②都筑学 高校生の進路希望と時間的展望 日本教育心理学会第51回総会 2009年9月20日 静岡大学

③都筑学 高校生の時間的展望の研究 日本心理学会第73回大会 2009年8月26日 立命館大学